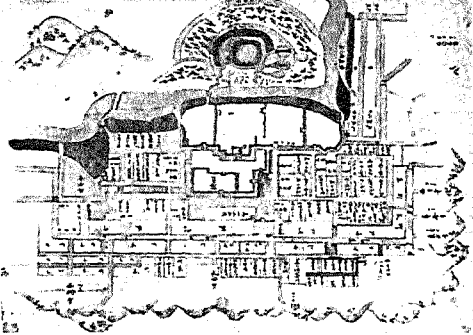


企画展 「絵図からさぐる 郡内の城・館」

戦国期の郡内は、相模の北条氏・駿河の今川氏・甲斐の武田氏など戦国大名の狭間に位置し、これら勢力に、小山田氏や北麓の小林氏などの地元豪族も巻き込まれ、抗争が繰り返されました。

郡内地域にも、これらの舞台となった居館、砦、烽火台などが数多くありましたが、そのほとんどは、記録に残ることなく消えていきました。

しかし、現在も、地名や伝承などの中に、その存在を伝えるものが残されており、その姿を江戸時代に記された村絵図から探ります。



谷村城下絵図 宝永2年(1705年)

現在残っている城跡は、文禄三年(一五九四)に浅野氏重によって築城されました。秋元氏の時代まで使用され、谷村城下絵図などで、その跡を見ることができます。

今回の展示では、山梨学院大学から寄贈されたジオラマ模型などにより、往時の勝山城の姿を再現します。

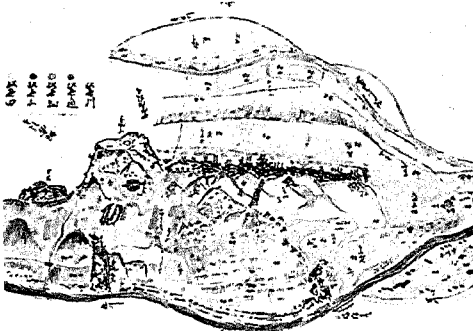
勝山城(谷村)

会期 3月3日(土)～4月22日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分 (入館は4時まで)

休館日 毎週月曜日 第三火曜日 祝日の翌日

入館料 一般 300円(210円) 高校・大学生 200円(140円) 小・中学生 100円(70円) (内は、20名以上の団体料金)



強瀬村絵図 文化3年(1806年)

郡内小山田氏の本拠として知られ、古くから天下の名城と称えられてきました。

江戸時代にはすでに廃城となっていました。文化三年の強瀬村絵図には、岩殿山と隣りの甲岩の地形まで詳細に描かれています。

岩殿城(大月市)



鹿留村絵図 文化3年(1806年)

『甲斐国志』編さんに使われた文化三年の鹿留村絵図に、「古城山」と記されており、住吉神社がすでに祀られているのがわかります。

『甲斐国志』では烽火台とされていますが、御殿場方面からの侵入を防ぐ、街道守備の城だったとも言われています。

古渡の城山(鹿留)



浅間神社ならびに富士山絵図 文化3年(1806年)

富士山の北麓、上吉田と新屋の境にあり、南の小倉山と街道を挟み込むような位置関係にあります。

文化三年の「浅間神社ならびに富士山絵図」に、「城山」として表されていて、最近の発掘調査でも、中世の山城であることが証明されています。

吉田城山(富士吉田市)

問合先 都留市博物館 「ミュージアム都留」

TEL (45) 80008 (45) 86008

現在、谷村高等女学校の卒業生によって、実行委員会が組織され、資料の収集などが行われていますので、卒業アルバムや記念写真、教科書など同校に関係した資料をお持ちの方は、ぜひとも、ご連絡をお願いします。

ミュージアム都留では、「赤い靴」十五夜お月さん」などで知られる童謡作家の野口雨情と、雨情が校歌を作詞した県立谷村高等女学校(昭和22年廃校)に焦点をあてた春季特別展「野口雨情—童謡・民謡詩人の巨匠(仮称)」の開催を計画しています。



昭和初期ごろの 谷村高等女学校

県立谷村高等女学校 に関する資料提供の お願い